

講演会

「足元」からの 平和構築

ジェノサイド後のルワンダにおける障害者支援

2018年1月12日(金)

時間 15:00-17:00

場所 京都大学稲盛財団記念館 3 階中会議室

参加無料、申込不要

講師

ムリンディ/ジャパン ワンラブ プロジェクト共同代表

ガテラ・ルダシングワ・
エマニュエル

ルダシングワ (吉田) 真美

司会

大庭弘継 (京都大学大学院文学研究科)

コメンテータ

近藤有希子 (日本学術振興会/同志社大学)

ルダシングワ夫妻は、
1994年のジェノサイド
後、1996年にムリン
ディ/ジャパンワ
ンラブ プロジェクト
(Mulindi/ Japan One
Love Project) という

NGOを立ち上げ、以来 21 年
間、足の不自由な障害者のための義
肢製作を続けています。この取り組み
は、単なる美談ではなく、衝突や摩擦
といった困難にも直面しました。真美さ
んのような外国人の「介入」に対して、反
発を受け不信の目を向けられたこともありま
した。さらに凄惨なジェノサイド後であるがゆ
えの問題にも直面しました。

共催する二つの研究プロジェクトは、ともに
フィールドからの視点を重視しています。この
講演会では、20 年以上にわたってルワンダで草
の根の活動をし、また義肢製作という、二つの
意味で「足元」からの平和構築に携わるルダシン
グワ夫妻をお招きし、地に足をつけた活動ならではの
困難と成果について率直なお話を伺います。

共催: JSPS 科研費 国際共同研究加速基金「人道的介入の実践における倫理/非倫理の類型化
(国際共同研究強化)」(代表: 京都大学・大庭弘継) 課題番号: 15KK0103
JSPS 科研費 基礎研究 (S)『アフリカ潜在力』と現代世界の困難の克服: 人類の未来を展望
する総合的地域研究(代表: 京都大学・松田素二)、開発・生業班(班長: 京都大学・高橋基樹)
課題番号: 16H06318
協力: 京都大学大学院文学研究科 応用哲学・倫理学教育研究センター (CAPE)



ムリンディ／ジャパン ワンラブ プロジェクトは、1996年にルワンダで障害者支援の活動を開始して、20年以上が過ぎた。1994年の大虐殺直後のルワンダは、インフラも破壊されて不十分で、また知識人も殺されて、虐殺を逃れて国外で生活をしている人も多く、人材も不足していた。大虐殺の際には、手足を斧で切り落とされた被害者もあり、そのため障害者となった人たちの数は多い。しかし新しい政府のもと、国民は復興に向けて大きな努力をしてきた。

当団体は、上下肢障害者に対して義足を無償製作・配布することを中心
に活動をおこなっており、また義足を履いて立ち上がろうと努力する障
害者に対して職業訓練をおこなってきた。虐殺後ゼロになった状態から
活動を始めた当団体の歩みは、ルワンダ政府が試みてきた国の復興にも
重なる部分が多く、活動が虐殺後のルワンダの歴史の一部を共に作っ
ているという思いが強い。

今回の講演では、虐殺後のルワンダの状態を伝えながら、20年をかけて
おこなってきた活動の内容や人々の心の変化について、写真を通して話
をする。また同時に、私の夫は虐殺の時代を生き延びてきた人間である
ため、その時の状況や現在のルワンダ人の意識、つまり、平和に向けて
彼らがどのようなことを考えているかというところをお伝えしたいと思う。

ルダシングワ（吉田）真美

ガテラ・ルダシングワ・エマニュエル

1954年、ルワンダ共和国キガリ市ギソジ生まれ。幼い頃、病気の治療ミスのため、右足が麻痺した。1959年にルワンダで社会動乱が始まったところからベルギー出身のカトリック神父が設立した障害者施設で育ち、神父の「私がしたこと感謝する必要はない。その代わり弱者に対して手を差し伸べる気持ちを持って」という意思を引き継ぎ、現在の活動を進めている。1980年代に度重なる戦火を避けるためにケニアへ逃れパートナーの吉田真美さんと出会う。1994年の虐殺終結後にルワンダに帰郷。現在は、ムリンディ／ジャパン ワンラブ プロジェクト・ルワンダ事務所代表である。障害者に義肢装具を提供すると共に、障害者スポーツの普及に力を注ぎ、現在、2020年の東京パラリンピックに出場するため、日々練習に訪んでいる。

ルダシングワ（吉田）真美

1963年、神奈川県茅ヶ崎市生まれ。1989年にケニアの首都ナイロビにあるスワヒリ語学校に留学し、現在の公私のパートナーである、ガテラさんと出会う。足に障害を持つガテラさんからルワンダの大虐殺や障害者の状況を聞いて義肢装具士になることを決意し、約5年間の修行後、その国家資格を取得した。1996年にガテラさんと共にルワンダでムリンディ／ジャパン ワンラブ プロジェクトを設立し、義肢装具の製作や義肢装具士の育成、障害者スポーツの普及、障害者に対する職業訓練などの活動を進めている。

